

科目名	音楽基礎 2						年度	2024	
英語科目名	Music Fundamentals 2						学期	後期	
学科・学年	コンサート・イベント科 1年次	必/選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	根本英子	教員の実務経験		有	実務経験の職種		ピアニスト・FMパーソナリティ・中学高等学校講師（音楽）・音楽教室講師		
【科目の目的】 スタッフとしてコンサートにかかわる現場において、楽譜が読めることは大切なスキルである。経験者も未経験者も楽譜を追うことができる力を養う。また、将来現場において、信頼度の高いスタッフになるための知識を増やす。									
【科目の概要】 ドレミ・・・を読むことだけにとらわれず、リズム、コードネーム、楽語等のさまざまな知識から多角的に楽譜を捉えられるようになるために、広い範囲で楽譜に関する知識を体得させる。また、ステージにかかわるものとして、楽器の知識やその扱い方、ステージの設営、などコンサートが完成するまでに必要な知識も得る。									
【到達目標】 A. 楽譜が読めるようになる＝ドレミ・・・以外の要素からもアプローチできるようになる。B. 音楽を構成しているいろいろな要素									
【授業の注意点】 授業時限数の4分の3以上出席しない学生は、定期試験を受験する事ができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	ト音記号・ヘ音記号双方で音が読め、リズム、楽語、Key、拍子など、楽譜に関する知識を体得している。	ト音記号・ヘ音記号双方で楽譜を読むことができる。	楽譜を階名で読むことができる。	講師の補助を受けて楽譜を階名で読むことができる。	どの要素からも楽譜を追うことができない。				
到達目標 B	楽譜に書かれていることに興味を持ち、自ら積極的に調べて知ろうとする姿勢がある。	授業で学んだことを理解し、素早く課題等をこなすことができる。	授業で学んだ内容を理解することができる。	講師の補助を受け、授業で学んだ内容について課題をこなすことができる。	授業で学んだ内容について理解ができず、課題をこなすことができない。				
到達目標 C	教科書にあることや授業で学んだこと以外にも関心を持ち積極的に知識を増やすことができる。	授業で触れたことについて理解し、自身の経験と照らし合わせたり想像したりすることができる。	コンサートに関する内容について興味を持ち、理解することができる。	コンサートに関する内容について想像し理解することができない。	コンサートに関することに興味を持って積極的に接することがない。				
到達目標 D									
到達目標 E									
【教科書】 楽譜の読み方授業時に配布されるプリント									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】 * 試験と課題を総合的に評価する * 積極的な授業参加度、授業態度によって評価する									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		音楽基礎2			年度	2024
英語表記		Music Fundamentals 2			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標=修得するスキル	評価方法	自己評価
1	前期の復習	前期に学習したことを確認する	1 前期試験の振り返り	前期に取り上げた内容について課題等がこなせる	3	
			2 問題点のあぶり出し	理解できていないことを確認し解決する		
			3 後期の授業内容について	すでに習得したことを基本として後期に学ぶことを認識できる		
2	音階について①	楽曲を構成する要素として音階を知る	1 音階とは何か	楽曲が作られる基本ツールである音階とは何かを知る	3	
			2 ハ長調の音階について	全音、半音を理解する		
			3 長音階のつくり	音階の仕組みが理解できる		
3	音階について②	ハ長調以外の音階について	1 前回の復習	ハ長調とはどういうものだったか、確認する	3	
			2 鍵盤の並び方	鍵盤の並び方を理解してそこから音階を考えることができるようにする		
			3 井、bがつく調	C以外の音からも長音階が作れるようになる		
4	音階について③	長音階のまとめ、短音階について	1 長音階のまとめ	与音から長音階が作れるようになる	3	
			2 短音階とは	平行調関係の短音階を理解する		
			3 自然短音階を書く	既習の長音階から平行短調の音階が書けるようにする		
5	音階について④	短音階の種類と音階のまとめ	1 短音階の種類	自然、和声、旋律といった種類について理解する	3	
			2 3種類の短音階に接する	各種の短音階の違いを理解し書ける		
			3 まとめ	ステージで演奏される楽曲がどのようにして作られているのか、理解する		
6	スコアリーディング	楽譜を見ながら楽曲を聴く	1 課題曲「少年時代」を聴く	楽譜を見ながら楽曲を聴くことができる	3	
			2 課題を解く	総小節数、テンポ、楽語についてなど、課題にこたえることができる		
			3 演奏箇所、リズム打ちなど	指示に従い演奏箇所をマークしたり、リズム打ちなどができる		
7	コードについて①	コードとは何か	1 コードネームを探す	楽譜に書かれているコードネームを確認できる	3	
			2 コードネームとは	音階をもとにコードが理解できる		
			3 コードのつくり	コードにはいろいろな形があることを知る		
8	コードについて②	いろいろなコードに触れる	1 コードの種類	種類による響きの違いを聴き分ける	3	
			2 コードネームの書き方	コードネームのつくりを知り、書いてみるができる		
			3 さまざまなコード	いろいろなコードに触れ、聴き分けてみる		
9	オーケストラについて	オーケストラの配置を知る	1 オーケストラとは?	オーケストラについて知識を増やす	3	
			2 オーケストラの配置	もっとも良く使われるストコフスキーシフトを学ぶ		
			3 配置図の作成	オーケストラ配置図を完成させ、演奏者数などを知る		
10	オーケストラの楽曲鑑賞とプログラムノートの作成	映像を見ながらオーケストラの演奏に触れる、プログラムノートを書いてみる	1 課題とする曲の説明	曲について知る	3	
			2 課題となる曲を鑑賞	演奏の映像を観ながら楽曲を鑑賞しつつ、曲について調べる		
			3 プログラムノートの作成	その曲のコンサートを仮定し、プログラムノートを書いてみる		
11	リズムを読む	リズム譜を読み、手拍子で演奏	1 リズム譜を読む	課題のリズム譜を読むことができる	3	
			2 演奏する	2パート、3パートのリズムのみの曲の演奏をする		
			3 発表する	2人組、3人組で練習の成果を発表する		
12	楽器の扱いについて	ピアノ等、主に備品となっている楽器の扱いを知る	1 ピアノについて	ホールに備えられている楽器の代表であるピアノについて理解する	3	
			2 扱い方	コンサートスタッフがピアノを扱うときの注意点を学ぶ		
			3 その他の楽器など	ピアノ以外の楽器についても注意点を知る		
13	吹奏楽について	吹奏楽のコンサートやコンクールにおける注意点を学ぶ	1 コンクールとは	様々なコンクールについて学ぶ	3	
			2 吹奏楽の特徴など	吹奏楽のスコアを見ながら楽曲をきき課題をとく		
			3 ビッグバンドについて	ジャズのビッグバンドのステージについても理解する		
14	習熟の確認	前期の内容からここまでの確認	1 課題を解く	前期から今まで学習した内容について理解できているか確認する	3	
			2 答え合わせ、解説	忘れていたこと、理解できていなかったことを確認し解決する		
			3 問題を解決する	質問があれば積極的に質問し、疑問を解決することができる		
15	試験対策	前期から通して学習した内容について試験準備をする	1 授業を振り返る	これまでに学習した内容を確認する	3	
			2 課題を解いてみる	自分がどこまで理解できているか確認する		
			3 質問等	わからない点など、そのままにせず質問して解決する		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等